

エコアクション21



環境経営レポート

2024年度

(期間:2024年 9月～2025年 8月)

電気を通じて環境の未来を考える



発行日:2025年9月20日

川浪電気工事株式会社

目 次

1. 組織の概要	1
2. 認証・登録の対象範囲	1
3. 環境経営方針	2
4. 環境経営目標	3
5. 環境経営計画	4
6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容	5
(1) エコアクション21実施体制	5
(2) 2022年度試行運用期間に実施した環境への取組	6
7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組 結果とその評価の実績、並びに次年度の取組	9
(1) 環境経営目標の実績	9
(2) 環境経営計画の実施・取組結果とその評価	11
(3) 今後の取組	13
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価 の結果、並びに違反、訴訟等の有無	15
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	15

1. 組織の概要

- (1) 事業所名 川浪電気工事株式会社
代表者氏名 代表取締役 宗雲 源成
- (2) 所在地 本 社 〒830-0044 福岡県久留米市本町12番地16
配工センター 〒830-0048 福岡県久留米市梅満町1150番地7
福岡支店 〒811-1356 福岡県福岡市南区花畑2丁目26-8
鳥栖営業所 〒841-0036 佐賀県鳥栖市秋葉町1丁目994-2
鹿児島営業所 〒891-0141 鹿児島県鹿児島市谷山中央6丁目25-11
- (3) 環境管理責任者 営業課長 中村 司
連絡担当者 中村 司
連絡先 TEL : 0942-38-5678 FAX : 0942-38-5681
Eメールアドレス nakamura@kawanamidenki.co.jp
- (4) 事業の内容 電気工事業 : 一般・自家用電気設備、信号設備、太陽光発電等
国土交通大臣許可(特-7)第3914号
消防施設工事業 : 火災報知器、消火設備、避難設備
国土交通大臣許可(般-7)第3914号
機械器具設置工事業 : プラント設備工事、サイロ設備工事、上下水プラント設備
国土交通大臣許可(般-7)第3914号
電力会社の配電設備工事
URL <http://www.kawanamidenki.co.jp>
- (5) 事業の規模

区分	単位	本社	配工センター	福岡支店	鳥栖営業所	鹿児島営業所	全社
従業員数	人	30	26	5	1	3	65
延床面積	m ²	819.14	975.02	264.00	21.20	144.36	2223.72
敷地面積	m ²	1048.69	1471.74	144.00	21.20	183.19	2868.82

- (6) 事業年度 9月 ~ 翌年 8月

2. 認証・登録の対象範囲

- (1) 対象事業所 本社、配工センター、福岡支店、鳥栖営業所、鹿児島営業所
- (2) 対象活動 電気工事業、消防施設工事業、機械器具設置工事業
電力会社の配電設備工事

3. 環境経営方針

＜環境経営理念＞

川浪電気工事株式会社は、「地球環境の保全」を経営理念として掲げ、持続可能な社会の構築にむけて企業活動に関わるあらゆる場面においてこれを追求し、良好な環境を次世代に引き継ぐことが出来るよう、全社をあげて積極的に取り組み、環境経営の継続的改善に努めて参ります。

＜環境行動指針＞

当社の環境理念に基づき深刻化する環境問題への対応を最重要課題とし、この事業活動に於いて環境への影響を抑制し、環境負荷の削減等を推進するために以下の事項について自主的、積極的、継続的に取り組みます。

1. 当社の事業に関連する環境関連法規等を遵守します。
2. 当社は次の項目を重点項目として、環境活動を計画的に取り組みます。
 - (1) 電力、燃料等のエネルギーの効率的な使用及び省エネに努め、二酸化炭素排出量を削減します。
 - (2) 廃棄物排出量の発生抑制とリサイクルを推進します。
 - (3) 節水に努め、水使用量を削減します。
 - (4) 化学物質の適正管理・削減に努めます。
 - (5) 人材の確保・育成により、技術的スキルの習得、能力の向上を図り、顧客に対して環境負荷の少ない工法を提案します。
 - (6) 周辺地域の清掃活動及びボランティア活動など、環境保全活動に積極的に取り組みます。
3. 当社の毎年の環境への取り組み状況を環境経営レポートにとりまとめ、全社員に周知させ一般にも公表します。

制定日 2024 年 7 月 11 日

川浪電気工事株式会社
代表取締役社長 宗雲 源成

4.環境経営目標

- ・環境経営目標は、当社の事業活動を踏まえて、2024年度～2026年度までの中期目標として、以下の6項目24目標をサイト区分(事務所、現場、全社)して設定しました。
- ・主要な環境負荷である二酸化炭素排出量と水使用量については、2023年度実績値を基準として、毎年1%ずつ削減し、2026年度までに3%削減を目指します。
- ・事業活動で取り組む本業目標については、「顧客に対する環境負荷の少ない工法の提案」を掲げ、全社をあげて取り組んで環境経営を推進していきます。

環境経営目標	サイト区分	単位	基準年 2023年度 実績値	目標				
				2024年度(1%削減)		2025年度 (2%削減)	2026年度 (3%削減)	
				試行運用期間	残期間			
				2023.9～ 2024.8	2024.9～ 2024.11	2024.12～ 2025.8	2025.9～ 2026.8	2026.9～ 2027.8
1. 二酸化炭素排出量の削減	本 社	kg-CO ₂	44,601	11,031	33,124	43,709	43,263	
	配工センター	kg-CO ₂	19,129	4,491	14,447	18,747	18,555	
	支店・営業所	kg-CO ₂	16,566	5,023	11,378	16,235	16,069	
	建 設 現 場	kg-CO ₂	80,947	20,511	59,627	79,328	78,519	
	全 社	kg-CO ₂	161,244	41,056	118,576	158,019	156,407	
	①電気使用量の削減	本 社	kWh	35,784	7,595	27,831	35,068	34,710
		配工センター	kWh	31,041	7,096	23,634	30,420	30,110
		支店・営業所	kWh	14,197	4,093	9,962	13,913	13,771
		建 設 現 場	kWh	1,043	258	775	1,022	1,012
		全 社	kWh	82,065	19,042	62,202	80,424	79,603
	②ガソリン使用量の削減	本 社	ℓ	11,898	3,200	8,579	11,660	11,541
		配工センター	ℓ	1,890	483	1,388	1,852	1,833
		支店・営業所	ℓ	4,234	1,327	2,865	4,149	4,107
		建 設 現 場	ℓ	9,971	2,519	7,352	9,771	9,672
		全 社	ℓ	27,993	7,529	20,184	27,433	27,153
	③軽油使用量の削減	建 設 現 場	ℓ	22,217	5,684	16,310	21,773	21,550
2. 廃棄物排出量の削減								
①一般廃棄物排出量の削減	全 事 業 所	kg	不明	837.6	2,561.8	3,365.4	3,331.8	
②産業廃棄物のリサイクル率向上	建 設 現 場	% (リサイクル率)	84	85	85	86	87	
3. 水使用量の削減	全 事 業 所	m ³	594	97	491	582	576	
4. 化学物質の適正管理・削減	建 設 現 場	kg	化学物質使用量を削減し SDSによる適正管理に努め る	0.15	0.32	0.465	0.461	
5. 顧客に対して環境負荷の少ない工法を提案								
①研修・社内勉強会の実施	全 事 業 所	回/年	不明	1	2	5	5	
②有資格者数の増加	全 事 業 所	人	2	1	1	2	2	
6. 地域貢献活動の推進								
①事業所周辺の清掃活動	全 事 業 所	回/月	不明	1	1	2	3	
②地域の環境保全活動への参加	全 事 業 所	回/年	1	1	1	1	1	

備考)・購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.475kg-CO₂/kWh(九州電力(株)2022年度調整後排出係数)を使用した。

・()内の数値は、基準年(2023年度実績値)に対する削減率を示す。

・サイト区分の全社とは「本社+配工センター+支店・営業所+建設現場」、全事業所とは「本社+配工センター+支店・営業所」を示す。

5. 環境経営計画

・環境経営目標を達成するため、以下の具体的な取組(活動項目)を設定して、全社員で取り組みました。

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標	サイト 区分	責任者	具体的取組	担当者	スケジュール
①電気使用量の削減	全事業所	中村	1. 事務所の室温は、冷房期28℃、暖房期20℃とし、エアコンで調節する	秦	冷房期： 5～9月 暖房期： 11～3月
			2. 不要な照明の消灯・夜間の主電源OFF	秦	通年
			3. こまめなスイッチのON・OFF	秦	通年
	建設現場	中村	1. 事務所の室温は、冷房期28℃、暖房期20℃とし、エアコンで調節する	中山	冷房期： 5～9月 暖房期： 11～3月
			2. 不要な照明の消灯・夜間の主電源OFF	中山	通年
			3. こまめなスイッチのON・OFF	中山	通年
②ガソリン使用量の削減	全事業所	中村	1. 急減速、急加速、無駄なアイドリングはさける	倉富	通年
			2. 不用品を車両から降ろして整理整頓・掃除	倉富	通年
			3. タイヤの空気圧の点検・整備	倉富	通年
	建設現場	中村	1. 急減速、急加速、無駄なアイドリングはさける	永尾	通年
			2. 不用品を車両から降ろして整理整頓・掃除	永尾	通年
			3. タイヤの空気圧の点検・整備	永尾	通年
③軽油使用量の削減	建設現場	中村	1. 急減速、急加速、無駄なアイドリングはさける	砥上	通年
			2. タイヤの空気圧の点検・整備	砥上	通年
			3. 建設機械の回転数の適正化	砥上	通年

2. 廃棄物排出量の削減

取組目標	サイト 区分	責任者	具体的取組	担当者	スケジュール
①一般廃棄物排出量の削減	全事業所	中村	1. 資源ごみと燃えるごみを分別して重量を計測し記録する	生野	通年
			2. 裏紙使用を徹底し、コピー用紙の使用量を削減する	山口	通年
			3. 事務連絡等は電子メールを活用する	井上	通年
②産業廃棄物のリサイクル率の向上	建設現場	中村	1. 現場における廃棄物の分別徹底	鐘ヶ江	通年
			2. 現場代理人は manifests の管理を確実にを行う	鐘ヶ江	通年
			3. 産廃物は資源物として引取る業者に優先して出す	鐘ヶ江	通年

3. 水使用量の削減

取組目標	サイト 区分	責任者	具体的取組	担当者	スケジュール
①水使用量の削減	全事業所	中村	1. 日常の節水・漏水の点検	秀	通年
	建設現場	中村	1. 節水の励行・洗車は必要最小限とする	瀬戸嶋	通年

4. 化学物質の適正管理・削減

取組目標	サイト 区分	責任者	具体的取組	担当者	スケジュール
①化学物質の適正使用・管理	建設現場	中村	1. 定期的に化学物質使用量（在庫量）を記録する	河崎	通年
			2. 化学物質使用者にSDSを渡し適正使用に努める	河崎	通年

5. 顧客に対して環境負荷の少ない工法を提案

取組目標	サイト 区分	責任者	具体的取組	担当者	スケジュール
①研修・社内勉強会の実施	全事業所	中村	1. 社内勉強会を計画的に実施する	倉富	通年
			2. 社外研修への積極的な参加	倉富	通年
②有資格者数の増加	全事業所	中村	1. 資格手当制度の活用で合格への意欲向上を図る	秦	通年
			2. 実力主義の評価制度を推進していく	秦	通年

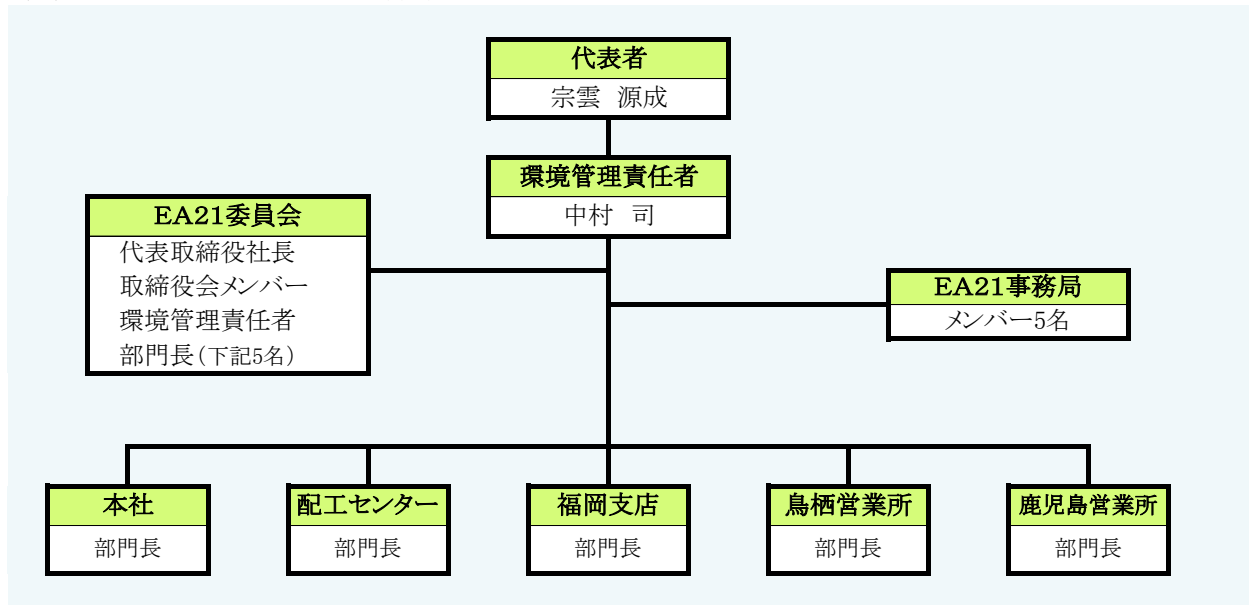
6. 地域貢献活動の推進

取組目標	サイト 区分	責任者	具体的取組	担当者	スケジュール
①事業所周辺の清掃活動	全事業所	中村	1. 年間スケジュールを作成し、会社周辺道路等の清掃活動を実施する	秦	通年
②地域の環境保全活動への参加	全事業所	中村	1. 地域の環境保全活動に積極的に参加する	河崎	通年

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

- ・2024年度に当社が実施した環境への取組は、以下のとおりです。
- ・実施に当たっては、社内に次のような実施体制を構築して、全社員が一丸となって取り組みました。

(1) エコアクション21実施体制



役割分担表

所 属	役割・責任・権限
代 表 者	<ul style="list-style-type: none">・代表者として環境経営全般について責任と権限を持つ・自社の経営における課題とチャンスを明確化する・環境経営方針を作成・見直し、従業員に周知する・環境管理責任者、EA21事務局員を任命する・環境への取組を実施するための資源(人・もの・費用・情報)を準備する・EA21全体の取組状況に関し評価、見直しを実施する
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none">・EA21ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築し、実行し、環境実績を向上させる。・毎年、環境経営目標、環境経営計画を作成する。・環境経営方針以外の制改定責任者・取組状況の確認・評価のために、定期的にEA21委員会を開催する。・上記の結果を代表者に報告する。
EA21委員会	<ul style="list-style-type: none">・毎月1回開催し、環境経営目標及び環境経営計画の取組状況を確認する。・取組状況を評価し、必要に応じて問題点の是正処置を検討する。
EA21事務局	<ul style="list-style-type: none">・環境管理責任者を補佐し、EA21文書及び記録類、及び基礎データの作成・維持・集計・管理を行う・社外からの環境情報の収集と伝達を行う
部 門 長	<ul style="list-style-type: none">・環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画を部門全員に周知する・環境経営目標達成のため、責任を持って自部門の環境活動を推進する・自部門で発生した問題点の是正処置、予防処置を実施する・自部門に関連する法規制等を順守する・自部門に関連する緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する・自部門の教育・訓練を実施する
全 従 業 員	<ul style="list-style-type: none">・環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚する・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する

(2) 2024年度に実施した環境への取組

・環境経営計画に基づき、以下の取組をSDGs(17のゴール)と紐付けて実施しました。



1. 二酸化炭素排出量の削減

(1) 電気使用量の削減



- ・本社事務所の室温は、冷房期28℃、暖房期20℃とし、エアコンで調節
- ・不要な照明の消灯・夜間の主電源OFF
- ・こまめなスイッチのON・OFF



(2) 燃料(ガソリン、軽油)使用量の削減



- ・急減速、急加速、無駄なアイドリングはさける
- ・不用品を車両から降ろして整理整頓・掃除
- ・タイヤの空気圧の点検・整備



2. 廃棄物排出量の削減



- ・資源ごみと燃えるごみを分別して重量を計測し記録
- ・裏紙使用を徹底し、コピー用紙の使用量を削減
- ・事務連絡等は電子メールを活用する



3. 水使用量の削減



- ・日常の節水・漏水の点検
- ・節水の励行・洗車は必要最小限とする



4. 化学物質の適正管理・削減



- ・定期的に化学物質使用量(在庫量)を記録する
- ・化学物質使用者にSDSを渡し適正使用に努める

2024年度								
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
消耗品	7	4	12	9				
材料費	3	2	3					
廃棄品	0	10	0					
廃棄品	0	12	9					

※1箱0.3kg



5. 顧客に対して環境負荷の少ない工法を提案



(1) 研修・社内勉強会の実施

- ・社内勉強会を計画的に実施する
- ・社外研修への積極的な参加



(2) 有資格者数の増加

- ・資格手当制度の活用で合格への意欲向上を図る
- ・実力主義の評価制度を推進していく



6. 地域貢献活動の推進

(1) 事業所周辺の清掃活動

- ・年間スケジュールを作成し、会社周辺道路の清掃活動を実施する



(2) 地域の環境保全活動への参加

- ・地域の環境保全活動に積極的に参加する



7. 環境経営目標及び環境経営計画の実施・取組 結果とその評価の実績、並びに次年度の取組

(1) 環境経営目標の実績

- ・ 2024年度の環境経営目標達成状況は下記のとおりであり、設定した環境経営目標6項目22目標のうち5項目9目標で達成、未達成の12目標については90%以上の達成率でした。
 - ・ 最大の環境負荷である二酸化炭素排出量については、全社の目標達成率が99%と100%を上回ることができませんでした。この要因としては、猛暑に起因するエアコン使用量の増加があり、気候変動への対応は今後の課題となっていきます。
- これはガソリン、軽油の使用量にも関係しますので、猛暑の影響を受けない部分の燃料使用量の削減への取組を強化し、削減に努めます。

環境目標	サイト 区分	単位	2024年度 (2024年9月～2025年8月)		目標 達成率 ※2	目標 達成評価 ※3
			目標※1	実績		
1. 二酸化炭素排出量の削減	本 社	kg-CO ₂	44,155	41,925	105%	○
	配工センター	kg-CO ₂	18,938	19,235	98%	×
	支店・営業所	kg-CO ₂	16,401	17,660	93%	×
	建設現場	kg-CO ₂	80,138	82,912	97%	×
	全 社	kg-CO ₂	159,632	161,732	99%	×
①電気使用量削減	本 社	kWh	35,426	36,691	97%	×
	配工センター	kWh	30,731	30,904	99%	×
	支店・営業所	kWh	14,055	14,930	94%	×
	建設現場	kWh	1,033	0	—	—
	全 社	kWh	81,245	82,525	98%	×
②ガソリン使用量削減	本 社	ℓ	11,779	10,559	112%	○
	配工センター	ℓ	1,871	1,964	95%	×
	支店・営業所	ℓ	4,192	4,555	92%	×
	建設現場	ℓ	9,871	9,813	101%	○
	全 社	ℓ	27,713	26,891	103%	○
③軽油使用量削減	建設現場	ℓ	21,995	23,312	94%	×

環境目標	サイト 区分	単位	2024年度 (2024年9月～2025年8月)		目標 達成率 ※2	目標 達成評価 ※3
			目標※1	実績		
2. 廃棄物排出量の削減						
①一般廃棄物排出量の削減	全事業所	kg	現状把握	3,399.4	—	—
②産業廃棄物のリサイクル率の向上	建設現場	% (リサイクル率)	85	82	96%	×
3. 水使用量の削減	全事業所	m³	588	564	104%	○
4. 化学物質の適正管理・削減	建設現場	kg	使用量の削減・ SDS適正管理	0.47	—	—
5. 顧客に対して環境負荷の少ない工法を提案						
①研修・社内勉強会の実施	全事業所	回/年	3	25	833%	◎
②有資格者数の増加	全事業所	人/年	2	29	1450%	◎
6. 地域貢献活動の推進						
①事業所周辺の清掃活動	全事業所	回/年	12	12	100%	○
②地域の環境保全活動への参加	全事業所	回/年	2	2	100%	○

備考)

※1 目標値は基準年(2023年度)の同期間実績値から削減率を乗じて設定した。

※2 目標達成率の計算 目標÷実績×100(削減目標の場合)、実績÷目標×100(増加目標の場合)

※3 評価区分 ◎:目標達成率≥120% ○:100%≤達成率<120% ×:80%≤達成率<100% ××:達成率<80%

(2) 環境経営計画の実施・取組結果とその評価

・2024年度の環境経営計画で定めた取組の実施状況は以下のとおりであり、設定したほとんどの項目で取組が実施でき、概ね良好な結果となっています。

1. 二酸化炭素排出量の削減

活動項目	サイト区分	達成状況	達成手段	実施状況	評価
①電気使用量の削減	全事業所	×	1. 事務所の室温は、冷房期28℃、暖房期20℃とし、エアコンで調節する	×	<現状> ・取組について、電気使用量はエアコンの温度設定が難しく、全体では目標達成できなかった。 ガソリン・軽油削減の取組は良くできたが、二酸化炭素排出量の削減目標は達成できなかった。 <今後> ・現在の取組を継続する。
			2. 不要な照明の消灯・夜間の主電源OFF	○	
			3. こまめなスイッチのON・OFF	○	
	建設現場	×	1. 現場事務所等の室温は、冷房期28℃、暖房期20℃とし、エアコンで調節する	×	
			2. 不要な照明の消灯・夜間の主電源OFF	○	
			3. こまめなスイッチのON・OFF	○	
②ガソリン使用量の削減	全事業所	×	1. 急減速、急加速、無駄なアイドリングはさける	○	
			2. 不用品を車両から降ろして整理整頓・掃除	○	
			3. タイヤの空気圧の点検・整備	○	
	建設現場	○	1. 急減速、急加速、無駄なアイドリングはさける	○	
			2. 不用品を車両から降ろして整理整頓・掃除	○	
			3. タイヤの空気圧の点検・整備	○	
③軽油使用量の削減	建設現場	×	1. 急減速、急加速、無駄なアイドリングはさける	○	
			2. タイヤの空気圧の点検・整備	○	
			3. 建設機械の回転数の適正化	○	

2. 廃棄物排出量の削減

活動項目	サイト区分	達成状況	達成手段	実施状況	評価
①一般廃棄物排出量の削減	全事業所	—	1. 資源ごみと燃えるごみを分別して重量を計測し記録する	◎	<現状> ・一般廃棄物の現状把握の取組が不十分であった。 <今後> ・現在の取組を確実に実施。
			2. 裏紙使用を徹底し、コピー用紙の使用量を削減する	○	
			3. 事務連絡等は電子メールを活用する	○	
②産業廃棄物のリサイクル率の向上	建設現場	×	1. 現場における廃棄物の分別徹底	○	
			2. 現場代理人はマニフェストの管理を確実にを行う	◎	
			3. 産廃物は資源物として引取る業者に優先して出す	◎	

3. 水使用量の削減

活動項目	サイト区分	達成状況	達成手段	実施状況	評価
①水使用量の削減	全事業所	○	1. 日常の節水・漏水の点検	○	<現状> ・良くできている。 <今後> ・現在の取組継続。
	建設現場	—	1. 節水の励行・洗車は必要最小限とする	○	

4. 化学物質の適正管理・削減

活動項目	サイト 区分	達成 状況	達成手段	実施 状況	評価
①化学物質の適正管理 ・削減	建設現場	—	1. 定期的に化学物質使用量（在庫量）を記録する	◎	<現状> ・良くできている。 <今後> ・現在の取組継続。
			2. 化学物質使用者にSDSを渡し適正使用に努める	○	

5. 顧客に対して環境負荷の少ない工法を提案

活動項目	サイト 区分	達成 状況	達成手段	実施 状況	評価
①研修・社内勉強会の 実施	事務所	◎	1. 社内勉強会を計画的に実施する	◎	<現状> ・勉強会・研修は計画的 に実施できている。 <今後> ・現在の取組を継続しな がら、資格取得に繋げて いく。
			2. 社外研修への積極的な参加	◎	
②有資格者数の増加	現場	◎	1. 資格手当制度の活用で合格への意欲向上を図る	◎	
			2. 実力主義の評価制度を推進していく	○	

6. 地域貢献活動の推進

活動項目	サイト 区分	達成 状況	達成手段	実施 状況	評価
①事業所周辺の清掃 活動	全事業所	○	1. 年間スケジュールを作成し、会社周辺道路等の 清掃活動を実施する	◎	<現状> ・実施できている。
②地域の環境保全活動 への参加	全事業所	○	1. 地域の環境保全活動に積極的に参加する	○	<今後> ・現在の取組継続

備考)

達成状況判定区分 ◎：目標達成率 \geq 120% ○：100% \leq 達成率 $<$ 120% ×：80% \leq 達成率 $<$ 100% ××：達成率 $<$ 80%
—：判定不可

実施状況判定区分 ◎：よく実施されている（定着状態） ○：実施されている ×：ほぼ実施されている
××：実施されていない —：判定不可

(3) 今後の取組

1) 環境経営目標について

- ・環境経営目標については、二酸化炭素排出量が未達成となっているため、2024年度に実施した環境への取組を引き続き実施し、その他の目標は「4. 環境経営目標」で計画している2025年度目標を適用します。

環境経営目標	サイト 区分	単位	基準年 2023年度 実績値	目標				
				2024年度(1%削減)		2025年度 (2%削減)	2026年度 (3%削減)	
				試行運用期間	残期間			
				2023.9～ 2024.8	2024.9～ 2024.11	2024.12～ 2025.8	2025.9～ 2026.8	2026.9～ 2027.8
1. 二酸化炭素排出量の削減	本 社	kg-CO ₂	44,601	11,031	33,124	43,709	43,263	
	配工センター	kg-CO ₂	19,129	4,491	14,447	18,747	18,555	
	支店・営業所	kg-CO ₂	16,566	5,023	11,378	16,235	16,069	
	建 設 現 場	kg-CO ₂	80,947	20,511	59,627	79,328	78,519	
	全 社	kg-CO ₂	161,244	41,056	118,576	158,019	156,407	
①電気使用量の削減	本 社	kWh	35,784	7,595	27,831	35,068	34,710	
	配工センター	kWh	31,041	7,096	23,634	30,420	30,110	
	支店・営業所	kWh	14,197	4,093	9,962	13,913	13,771	
	建 設 現 場	kWh	1,043	0	775	1,022	1,012	
	全 社	kWh	82,065	18,784	62,202	80,424	79,603	
②ガソリン使用量の削減	本 社	ℓ	11,898	3,200	8,579	11,660	11,541	
	配工センター	ℓ	1,890	483	1,388	1,852	1,833	
	支店・営業所	ℓ	4,234	1,327	2,865	4,149	4,107	
	建 設 現 場	ℓ	9,971	2,519	7,352	9,771	9,672	
	全 社	ℓ	27,993	7,529	20,184	27,433	27,153	
③軽油使用量の削減	建 設 現 場	ℓ	22,217	5,684	16,310	21,773	21,550	
2. 廃棄物排出量の削減								
①一般廃棄物排出量の削減	全 事 業 所	kg	不明	837.6	2,562	3,365	3,332	
②産業廃棄物のリサイクル率向上	建 設 現 場	% (リサイクル率)	84	85	85	86	87	
3. 水使用量の削減	全 事 業 所	m ³	594	97	491	582	576	
4. 化学物質の適正管理・削減	建 設 現 場	kg	－	0.15	0.32	0.465	0.461	
5. 顧客に対して環境負荷の少ない工法を提案								
①研修・社内勉強会の実施	全 事 業 所	回/年	不明	1	2	5	5	
②有資格者数の増加	全 事 業 所	人	2	1	1	2	2	
6. 地域貢献活動の推進								
①事業所周辺の清掃活動	全 事 業 所	回/月	不明	1	1	2	3	
②地域の環境保全活動への参加	全 事 業 所	回/年	1	1	1	1	1	

備考)・購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.475kg-CO₂/kWh(九州電力(株)2022年度調整後排出係数)を使用した。

・()内の数値は、基準年(2023年度実績値)に対する削減率を示す。

・サイト区分の全社とは「本社+配工センター+支店・営業所+建設現場」、全事業所とは「本社+配工センター+支店・営業所」を示す。

2) 環境経営計画について

- ・環境経営目標の達成状況と環境経営計画の実施状況との関係から、目標未達成となった二酸化炭素排出量については、現在の取組を引き続き周知徹底して実施することとします。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

- ・ 当社の事業活動、製品及びサービスに適用される主な環境関連法規等は以下のとおりです。
- ・ 2024年度の事業活動に対して、2025年8月に環境関連法規等の遵守状況を確認・評価した結果、全ての法律で遵守を確認し、違反はありませんでした。
- ・ また、関係機関等からの違反の指摘、利害関係者からの訴訟も過去3年間ありませんでした。

適用される法規等	適用される事項(施設・物質・活動等)
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理・排出 マニフェストの交付・回収・保管の適正処理
建設リサイクル法	一定規模以上は建築4品目の分別解体と再資源化
フロン排出抑制法	業務用エアコンの簡易定期点検の実施

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

- ・ 今回の2024年度事業活動終了後に、代表者による取組状況の全体評価と計画の見直しの必要性を検討しました。結果は、以下のとおりです。

(1) 取組状況の全体評価

- ・ 環境への取組状況については、二酸化炭素排出量の削減以外はまずまずの結果を得ておりますが、初年度の運用という事もあり、短期間での取り組み期間であったため、活動が十分とは言えませんでした。
今後は、二酸化炭素排出量の削減取組を継続・強化に努め、達成率の向上に向けた活動を確実に実施していきます。

(2) 見直しの結果

- ・ 試行運用期間を経て認証の取得に至りましたが、今後も継続して環境経営方針に基づく活動を展開していく中で、取り組みに関する社員への意識付けをより深め、目標達成に努めてください。
資料作成が目的とならないように留意してください。

